

御伝鈔(その9)

親鸞聖人のひ孫である覚如上人が、親鸞没後33年に親鸞聖人の御遺徳を讃えた『報恩講私記』を著わされました。続いてその翌年、親鸞聖人の伝記絵『親鸞伝絵』を著わされ、詞書(ことばがき)の部分だけを『御伝鈔』(上巻・八段、下巻・七段)といいます。

第三軸・第一図「師資遷謫(ししせんたく)」

承元元年2月の念仏禁制の情景が描かれています。



第三軸・第三図「師資遷謫(ししせんたく)」

仁寿殿において公卿衆を召集し、法然上人などの罪科を詮議している情景が描かれています。



第三軸・第二図「師資遷謫(ししせんたく)」

仁寿殿において公卿衆を召集し、法然上人などの罪科を詮議している情景が描かれています。



第三軸・第四図「師資遷謫(ししせんたく)」

親鸞聖人も法然上人と同じく16日、配所は越後の国府と定められ出発します。

法然上人を見送るのは辛く、時を早めて朝早く岡崎の草庵へ出発されているところが描かれています。右半分は親鸞聖人が輿に乗せられるところで、左半分は親鸞聖人が乗られた輿が門を出たところが描かれています。



住職レター

時の移ろいは早いもので、来年(平成二十八年)の法要日程表完成しました。お手元に届きましたら、ご覧いただき、来年のスケジュール帳に、法要日程を書き込んでください。

平成二十八年法要日程表キーワードは「白骨の章」。

浄土真宗中興の祖といわれています第八代門主、蓮如上人が、真宗の教えを一般の門徒に伝えるために、平易に述べて頂いたもので、八十通が納められています。そのなかでも、第十六通目の「白骨の章」は、人間のはかなさ無常の姿を論じたもので、通夜葬儀を通して拝読します。この御文章を耳にすると、命の無常の姿を改めて教えられることでしょう。併せて、意訳も掲載しました。御文章「白骨の章」を味わって頂ければと思います。

表紙の写真は、善教寺境内に安置された、親鸞聖人像です。インパクトある写真でしょう。

今回の法要日程表から、ページ数が増えたこと、気付いて頂けましたでしょうか？

葬送儀礼の心得と法事の心得を掲載しました。こちらも併せて、ご参考になさってください。



『平成二十八年法要日程表、表紙の写真』